

患者及び関係医療機関各位

JCHO北海道病院とKKR札幌医療センターにおける 周産期部門と婦人科部門の充実強化に向けた再編について

1 概要

- 同じ豊平区内に所在するJCHO北海道病院とKKR札幌医療センターにおいて、少子高齢化の進展などの社会情勢に鑑み、将来を見据えて令和5年4月を目途に両病院の周産期機能と婦人科機能の充実強化に向けた再編を行うことについて、このたび合意に至り、医師派遣元である北海道大学や北海道が設置する札幌圏域地域医療構想調整会議の了承も得たもの。

2 再編の内容

JCHO 北海道 病院	<ul style="list-style-type: none">➢ 2病院の産科と新生児医療を中心とする周産期機能を当院へ再編し、高度な医療提供を可能とする。➢ 分娩や母体搬送件数の増加に対応したNICU(新生児集中治療室)の増床など医療提供体制の充実を図る。➢ 分娩用の陰圧手術室等を整備し、COVID-19等に感染した妊婦でも安心して出産できる体制を提供する。
KKR 札幌医療 センター	<ul style="list-style-type: none">➢ 2病院の婦人科機能を当院へ再編し、高度な医療提供を可能とする。➢ 生殖医療から更年期疾患、婦人科悪性腫瘍までの幅広い領域をカバーする。➢ 特に婦人科悪性腫瘍は、ロボット手術や放射線治療などを組み合わせた集学的治療など、充実した高度がん診療を提供する。➢ 小児科ではアレルギー・リウマチ等の専門分野に加え、児童精神分野にも注力し医療提供体制の充実を図る。
共通事項	<ul style="list-style-type: none">➢ 再編に伴う症例の増加により技術や経験が効果的に蓄積されるなど、医師をはじめとした医療スタッフの研修・教育の場として充実が図られる。➢ 医療資源の再編により勤務環境の改善が期待される。

[イメージ]

	再編前			再編後		
	周産期(健診)	婦人科	小児科	周産期(健診)	婦人科	小児科
JCHO北海道病院	○(○)	○	○	◎(○)	—	○
KKR札幌医療センター	○(○)	○	○	—(○)	◎	◎

3 再編を行う時期(予定)

- 令和5年(2023年)4月

4 再編を行う理由等

- 両院においては、高齢化や少子化に伴う医療ニーズの変化が早い中、医療機関が設置主体等の違いを乗り越えて、将来にわたって高度で質の高い医療を提供する責務を果たすべく、協力し合う必要がある。
- 将来的に出生数は減少が見込まれるものの、ハイリスク分娩への対応が求められており、また、高齢化に伴って悪性腫瘍の増加などが予想される。
両院は約2kmの距離で所在しており、それぞれが周産期・婦人科機能をもつことは、医療機能の分散であり、限られた資源の活用という観点からは非効率

な状態である。

また、将来的な分娩数の減少が見込まれることにより、それぞれが分娩を取り扱うことは、医師等の医療技術者の技能の維持・向上にとってもマイナスの影響が懸念される。

- これらを背景とした今回の再編については、医師派遣元である北海道大学からは、病院の機能強化につながるもので、医師の育成の場としても好ましいことであり、育成機能の強化により地域のみならず全道に還元する効果が期待できるとして了承を得ているところ。
- さらに、北海道が設置する札幌圏域地域医療構想調整会議からは地域医療構想に合致するものとして同意を得ているところ。

5 目指す姿

- 機能の再編による医療チームの強化や医療機能の充実は、地域住民の安心・安全に長く応えるものであり、同時に医育機関とも連携した医療人の育成の場とすることにより、札幌南地域はもとより、広く道内の医療に貢献することを目指す。
- 今後、20年、30年先を見据えた場合、将来の地域医療を「医療の縮小」ではなく「医療の充実」で、「医療機関や診療科の廃止」ではなく、「医療機関の連携と機能分担」により維持する。

令和4年4月22日

KKR 札幌医療センター

病院長 磯部 宏